

建コン協へ三つの貢献

若手技術者の技術向上など 共助研

九州郷づくり共助ネット

トワーク研究会(共助研、針豊武紀会長)は、

共助研による郷づくりのための仕組み・活動・体制に関する提言をまとめたが、その中で母体である建設コンサルタント協会に対して、①若手技術者の技術向上の場の提供②職域拡大に向けたパイロットプロジェクト③人的資源としてのOB技術者参画による社会貢献促進と技術力継承の場の提供の三つの貢献を想定している。

一方で、建コン協との有効で円滑な連携を構築しながら自立した組織となることも目指しており、高齢化が進んだ集落、集落機能維持が困難になりつつある集落が今後さらに増加することが予想されるなど、深刻化する中山間地域等の農山漁村の衰退のなかで、今後の活動が注目され

三つの貢献の内容は次のとおり。

▽若手技術者の技術向上の場の提供―建設コンサルタントが従事している業務は、行政からの受注したものが大半となっているが、近年は、行政の要求に添えるだけでなく、その業務の対象地域住民の要望に配慮する

とともに、住民との合意形成を図ることが重要視されてきている。共助研が行っている中山間地域への支援活動は、地域に

直接入って住民に接し、住民が何を要望し、住民がどのような方向に向かって地域経営を行っていきたいのかを把握することが大きな役割。この

ような活動に、協会加盟の各社若手技術者を派遣し、共助研とともに地域支援を経験することは、

今後、業務を遂行する際に業務の大きなファクターとなる住民との合意形成について大いに役立つものと考ええる。

▽職域拡大に向けたパイロットプロジェクト―新しい公共の価値が社会的に認知されていない現在において、建設コンサルタントが新しい公共としての任を果たすには時期尚早だが、建設コンサルタント業界の職域拡大を図っていくうえで、新

しい分野にトライすることも必要。そのパイロット的な役割を担うのが共助研であると考え、活動継続によって、今後、建設コンサルタントの職域拡大に何がしか寄与できると確信する。

▽人的資源としてのOB技術者参画による社会

貢献促進と技術力継承の場の提供―共助研の構成員の大半は、各企業において実務に従事している技術者であることから、

活動にはおのずと限界があり、十分な社会貢献を行うに至っていないのが現状。定年を迎えた建設

コンサルタント技術者(OB)の活動参画があれば、人的ストックが図られ、共助研の活動域は大幅に拡大し、より多くの社会貢献の事例が生まれる。また、若手技術者のOB技術者の交流により、OBが現役時代に培った優秀な技術力を、後世にも残し継承を図る場として活用することができると考ええる。